

学 会 記 事

◎第8回理事会(35.1.25) 出席者：田中会長，本間，宮澤両副会長，尾之内，八十島，井口，小野，西嶋，末森専務の各理事。報告事項：1月23日までの各種委員会，その他の事項，会計，刊行物の報告。協議事項：1) 通常総会および第15回年次学術講演会は5月末東京において開催のことに決定。講演会の実施計画，日程，会場等につき関係理事により企画すること。2) 学術会議中央選挙管理委員会委員改選については辞任申出での中安氏の後任を考えることとし，他は留任願うこと。3) 定款および規則の改正要点につき協議し，引続き研究すること。4) 35年度事業計画および予算編成について，次回理事会に際し関係委員会の委員長および幹事との懇談会を開き協議すること。5) 学会誌編集委員会幹事深谷氏の後任に杵掛哲男氏を委嘱すること。6) 34年12月申の会員入退会を承認。

◎各種委員会

1. 第8回学会誌編集小委員会(35.1.8) 出席者：田原委員長，寺島(代遠山)，中村，堺の各委員，深谷幹事。議事：1) 45巻2号学会誌編集につき最終的打合せを行なった。2) 35年度表紙の刷色を決定。3) 45巻1号口絵写真の決定。4) その他。

2. 第8回文献調査委員会(35.1.7) 出席者：樋口委員長，伊能，日野，高野，徳田の各委員。議事：1) 会誌45巻2号登載抄録および目録の選定。2) 今年度の委員会のあり方について懇談した。

3. 災害対策研究会第1回幹事会(35.1.12) 出席者：岡田委員長，三木，安芸(代巖真)，箕輪，森本，三浦(代今津)，磯田，君島の各幹事。議事：岡田委員長から本委員会の運営方法につき説明され，幹事はその所管の災害調査につき話し合った。次回はその資料を持ちよって操作方針を立てることとした。

4. 第4回土木賞規約制定委員会(35.1.18) 出席者：星埜委員長，横田，田原，最上，太田尾，高畑(代高居)，後藤(代河上)，丹羽，庄司，篠原(代荒木)の各委員。議事：過去に審議された各委員，支部の意見の各案を総合して起草された案につき，つぎの各項につき協議された。(1) 土木賞委員会の構成：1) 委員会の構成，2) 委員の選考方法，3) 委員の数および地区割当，4) 委員の性格および任期，5) 幹事指名および任期，6) 委員長および学術賞主査，技術賞主査の選挙。(2) 土木賞委員会の運営：1) 候補論文募集，2) 候補論文推せん方法，3) 審査員の選定，4) 審査の方法，5) 予選と決選，6) 報告。(3) 各委員はさらに検討することとし次の点につき意見を提出することとした，1) 共著論文の場合，2) 既受賞の場合，3) 学術，技術の区分，4) 推せん手続き様式。

5. 第8回学会誌編集委員会(35.1.21) 出席者：八十島編集部長，井口副委員長，田中(関西)，網干(中四)，後藤(東北)の各支部委員，奥村，堺，梶野，南部，都，足立，米沢，田村，中村，上東，雛波，三浦，諫山(代土居)，海保(代森本)の各委員，深谷幹事。議事：1) 投稿原稿審査報告，2) 新規受付原稿審査委員の決定，3) 依頼原稿状況，4) 編集幹事の交代の件，5) 土木賞について，6) 45巻3号登載原稿を次のとおり予定した。

近藤・小松・松永：辰巳橋の設計と製作について，高橋信策：海門橋架設工事，高橋憲雄：道路用ガードレールの衝突実験，高橋(彦)・飯塚：下久野トンネルにおける地圧測定，堀 武夫：土木教育と土木技術，佐藤・荒田：新潟における地盤沈下について

6. 論文集各部委員会(35.1.25)出席者：第1部会：奥村部会長，井上，伊藤(文)，大久保，君島，田島の各委員。第2部会：竹内部会長，嶋，伊藤(和)，原口，芦田，木村，藤波，光易，千秋の各委員。第3部会：最上部会長，高橋(彦)，渡辺，森，山口の各委員。第4部会：丸安部会長，多谷，佐藤，斎藤，鈴木，藤井の各委員，八十島編集部長，徳平編集幹事。議事：1) 各部会ごとに審査中の原稿審査報告および新規受付原稿審査委員の決定，2) 土木賞の件，3) 編集幹事交代の件，4) その他。

7. 国鉄委託「構造物の耐震設計研究委員会」(35.1.25) 出席者：沼田委員長，友永委員，久保幹事長，伊藤，大地，橘高，後藤(尚)，小寺，河野，笹沼，白石，野沢，伯野，御牧(代加藤)，宮崎，森本の各幹事。議事：1) 経過報告，2) 資料の整理方法につき審議，3) 次回を2月15日に予定，4) 久保幹事長よりMessina地震会議について報告。

8. 耐震工学委員会(35.1.28) 出席者：沼田委員長，岡本，篠原(清)，伊藤，星埜，畠山，比田(代)，田原，友永(代)，久保の各委員，那須東大教授，末森専務理事。議事および報告：1) 委員に東大地震研究所長 那須信治氏を追加委嘱を承認。2) WCEE 準備報告，a. 海外からの論文提出状況，b. 参加申込勧誘の手配について，3) WCEE に委員会から提出する論文について，4) インド Roorkee 大学，Krichna 教授との会談について，5) 関東地震震害報告書の収集について，6) 災害対策研究委員会と本委員会との関係事項について，7) 国鉄委託研究の進行状況の報告，8) 科学技術会議よりのアンケートについて，9) 地震工学 Training Center の進行状況について，10) Messina 地震会議派遣代表久保委員より状況報告があつた。

9. フライアッシュ小委員会(35.1.29) 出席者：園分委員長，三浦，水越(代知久)，平野，関，山田，高野，左右田，高橋，武藤，本間(代山田)，光岡，久木田，杉木，太斉，平野硬(代石川)，石垣の各委員，九電社長，藤田氏(関電)。議事：1) 三浦，杉木両委員および関委員より提出された二研究報告の説明と討議，2) 国

分委員長より各種フライアッシュ共通試験報告論文について説明，論文中の表の数値について各委員が検討すること，3) 今後の運営，4) シンポジウムの開催計画，5) 次回委員会開催を4月20日に予定する。

◎その他

1. 学術会議会員懇談会 (35.1.20) 出席者：石原，吉藤両会員（福田会員欠席），鈴木，岡田前会長，安芸科学審議官，田中会長，本間副会長，尾之内，小野，藤村，八十島，末森専務の各理事。話題：田中会長——土木学会の事業計画の概要を説明し，これに対し学術会議会員の協力を要望された。石原会員——土木工学の大学教育改革についての抱負を述べ，学会の協力を要望された。吉藤会員——土木関係者の特許に関する認識を深め，特許の運用について学会の協力を求められた。鈴木前会長——学術会議と学会との連繋を密にし，相互協力に努めたい。岡田前会長——学術会議の活動範囲，方法に応じ会員と学会の連絡を緊密にし協力したい。安芸科学審議官——科学研究機関の発展のために科学研究費増額に尽力されたい。特に土木工学の内容編成転換期であるとの意見を述べられた。

2. 昭和34年度土木賞委員会委員を次のとおり常議員会に推せんすることとした。

専門委員：

- (電力) 新井 義輔 電源開発KK土木部次長
- (都市計画) 五十嵐醇三 建設省計画局区画整理課長
- (コンクリート) 内山 実 中央大学教授
- (鉄道・建設) 小田 仁 国鉄建設局長
- (応力) 岡本 舜三 東京大学教授
- (施工) 加納 俊二 KK熊谷組常務取締役
- (港湾) 佐藤 肇 運輸省港湾局建設課長
- (鉄道・保線) 柴田 元良 国鉄施設局長
- (水理) 田中 清 大阪大学教授
- (道路) 谷藤 正三 建設省道路局国道課長
- (衛生) 寺島 重雄 建設省計画局下水道課長
- 沼田 政矩 早稲田大学教授
- (土質・基礎) 星 堃 和 東京大学教授
- (土質・応力) 水野 高明 九州大学教授
- (橋梁) 安宅 勝 大阪大学教授
- (河川) 横田 周平 建設省土木研究所長

地方委員：

- 北海道 横道 英雄 北海道大学教授
- 東北 樋浦 大三 東北大学教授
- 中部 四野宮哲郎 岐阜大学教授
- 関西 米谷 栄二 京都大学教授
- 中国 庄司陸太郎 広島大学教授
- 西部 松尾 春雄 九州大学教授

学会側：

- 会長 田中 茂美 興和コンクリートKK社長
- 副会長 本間 仁 東京大学教授
- ” 富樫 凱一 建設省建設技監
- 編集部 八十島義之助 東京大学教授
- 会誌編集委員長 田原 保二 日本道路公団調査役
- 論文編集委員 最上 武雄 東京大学教授

- 3. 東京不燃都市建設促進会の評議員に田中会長就任方（1月21日付）を承諾した。
- 4. サベージ博士記念文庫を東京都市政専門図書館より引取り，学会で管理することとなった。

支部だより

◎中部支部

研究発表講演会 (35.1.29, 岐阜県建設会館)

講演次第：

- 挨拶
- 1) 移動河床模型実験の相似律について {岐阜大学 増田 重臣
同 河村 三郎
 - 2) 国道41号線の経済効果について 岐阜大学 加藤 晃
 - 3) レールクリーブに対する道床抵抗力につ {金沢大学 小野 一良
いて 同 成瀬 忠明
 - 4) P S橋(示野橋)のクリーブ測定結果に {金沢大学 加場 重正
ついて 同 林 安雄
 - 5) 基礎杭の動的試験について {金沢大学 保田市兵衛
愛知県土木部 西田 義親
坂井 尚弘
- 休憩 (昼食)
- 6) 紀勢線逢坂トンネル管根トンネルの施 {国鉄岐阜 久保村浩二
工について 工事務局
 - 7) 中央線大曾根一名古屋線増立立体化につ {国鉄岐阜 朝倉 隆
いて 工事務局
 - 8) 格子ゲタの振動解析について 名古屋工業大学 松浦 聖
 - 9) 地面浸食にともなう裸地斜面の粒度組 名古屋工業大学 土屋義人
成の変遷について
- 休憩
- 10) 昌隆発電所の設計基本 中部電力KK 鷺見 五郎
 - 11) 兼見トンネル施工上の諸問題 KK間組愛知用水兼 伊藤 弘
見隧道工事々務所長
 - 12) 抵抗器のみを回路要素とした相似回路 名古屋工業大学 山内利彦
による構造物の応力解析
 - 13) 硬質塩化ビニール管の弾性限度について 岐阜大学 富永 正俊
- 挨拶

◎関西支部

(1) 第9回幹事会 (35.1.18, 大阪府立大手前会館) 出席者：江口支部長，小西幹事長，石田，北村，伊藤，中川，後藤，八木(代)，大野の各幹事。

(2) 海外事情講演会 (35.1.18, 大阪府立大手前会館3階講堂)

1) 題目と講師：

- 1. メキシコにおける国際港湾会議と 神戸市長 原口忠次郎
欧米の二、三の土木事業について 工 博
- (映画 Walt Whitman 吊橋1 巻を上映)
- 2. ソ連の内陸水運について 大阪府土木部 片岡 武
河川課長
- 3. 米圏における地震工学を中心と 京都大学助教 後藤 尚男
して 工 博

2) 映画：Mackinac 吊橋 1巻

3) 参加費：無料 4) 参加者：141名。

(3) 会員懇親会 (35.1.18, 府立大手前会館第2会議室)

1) 参加費：200円 2) 参加者：68名。

◎中国四国支部

(1) 第11回学術講演会 (34.12.2~3, 岡山県庁8階正庁)

題目および講師：

12月2日

- 1) 軟弱地盤における橋梁基礎の施工例及 {中四地建, 岡 山崎 寿雄
び計画について 山工事々務所 同 岡田 哲夫

- 2) 粘土の水平圧密係数の測定に関する研究 { 広島大土木科 網千 寿夫
同 門田 博知
- 3) 杭の先端角度の変化による引抜き強さ及び
先端抵抗の変化について 広島大土木科 林 公重
- 4) 周辺非拘束砂利層内の圧力分布について 山口大土木科 最上 幸夫
- 1)~4) 討 議
- 5) 四国管内一級国道の月別交通量観測結果について { 四国地建, 道 堀井 迪彦
路計画課 同 牧倉本 稔
同 同 同 勝美
- 6) 豊浜町地内のアスファルト舗装工事 (昭和33年度施工) 施工概要について { 四国地建, 高 吉次 保雄
知工事事務所 同 香川国道 三田 潔
工事事務所
- 7) キャッピング材料についての一, 二の実験 { 広島大土木科 荒木 謙一
同 同 福井 英吉
- 8) 粗細混合骨材の空隙に関する二, 三の研究について { 徳島大土木科 荒木 謙一
同 同 富増 彰
- 5)~8) 討 議
- 9) モルタル, コンクリート供試体の表面仕上厚さ, 形状による圧縮破壊様相の考察 { 山口大土木 加賀美一二三
科 同 坂井 潤
- 10) 重信川上流流域における流出土砂量の
一考察について { 四国地建, 脇 大北健次郎
川工事事務所 同 設楽 武久
同河川工事課 同 前川 浩通
同松山工事事務所
- 11) 砂礫の発生条件について { 山口大土木科 梶 東一郎
同 同 同 松浦 哲
- 12) 土佐湾沿岸の漂砂と河口閉塞に関する
研究—第1報—(スライド) 四国地建, 高 深谷 新
知工事事務所
- 9)~12) 討 議

12月3日

- 13) ホローダムダイヤモンドヘッド内部
応力の解析について 四国電力KK 島崎 博章
土木課
- 14) 管網計算法の実際について 徳島大土木科 青木 康夫
- 15) 山陽本線西大寺岡山間百間川橋架替
工事報告 国鉄, 岡山鉄 井上喜三郎
道管理局
- 16) 箱桁橋の一解析法 徳島大土木科 星 治雄
同 同 児島 弘行
- 17) 格子ゲタ構造の最小重量設計について 山口大土木科 米沢 博
- 18) Dywidag 工法によるPC橋について 別子建設KK 上野 正夫

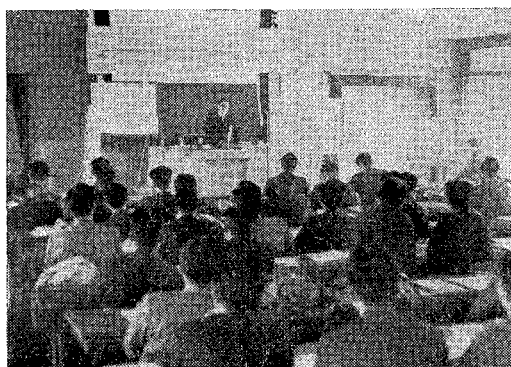
13)~18) 討 議

嵐山橋架替記録映画

特別講演

- 水島工業地区の計画について 岡山県庁 行友 誠
- 中・四国連絡橋について 東大土木科 工博 平井 敦
- 南米事情について 中国地建, 建設局長 深谷 克海

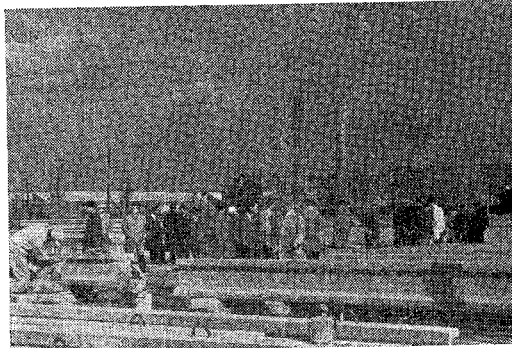
写真—1 平井教授の特別講演



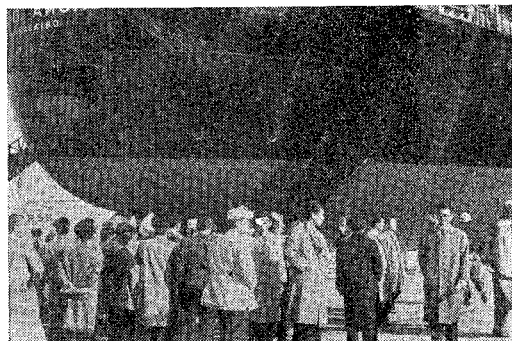
(2) 見学会 (35.12.4)

行程: 岡山県庁(8.30)——百間川——国鉄赤穂線吉井川橋梁レオンハルト工法見学——水島港——ピー エス コンクリート水島工場——大原美術館・民芸館(倉敷)——岡山駅。

写真—2 ピー エス コンクリート水島工場にて



写真—3 水島港にて



本行事にあたって御尽力をいただいた岡山県庁各位を始め関係各位に深く謝意を表する次第である。

(3) 映画会 (四国地区 35.1.19, 13.30~16.00 香川県庁参加者 150 名)

(中国地区 35.1.20, 13.30~17.30 広島市土建会館参加者 100 名)

1. 欧米の橋梁事情報告 30分 高田機工.KK 木崎輝雄君
2. 欧米道路橋梁視察記録スライド 60分
3. 映画 Mackinac Bridge 架橋工事 40分
映画 Carqueneq Bridge 架橋工事 40分
4. 映画 只見川ダム 50分 } (中国地区のみ)
上椎葉ダム 20分 }

名誉員	大河戸 宗 治 君	品川区小山7の509	昭和 35 年1月 15 日 死去	82 才
名誉員	真 田 秀 吉 君	大田区山王町2の1931	昭和 35 年1月 20 日 死去	88 才
正 員	近 藤 正 雄 君	中国電力KK土木部長	昭和 34 年12月 27 日 逝去	52 才
正 員	日 笠 育 夫 君	プレストレスト コンク リート技術協会書記長	昭和 35 年1月 10 日 死去	61 才
正 員	日 高 重 義 君	宮崎市土木課長	昭和 34 年 12 月 死去	63 才

学術用語集土木工学編改訂 (※印は下からの行致)

ページ	行	列	四	版	改訂(五版)
まえがき 3	※13		採鉱冶金		採鉱冶金
まえがき 5	10		用語案		用語集
9	※5	3	mould board plough ((plow))		mound-board plough ((plow))
11	17	1	burêki-kurassyâ		Burêki-kurassyâ
30	※3	1,2,3	hakkaten 発火点 ignition point		hakka-ond 発火温度 ignition point ((temperature))
35	8	3	flash-butt welding		flash-butt welding, flash welding
70	※10	3	collimeter		collimator
109	8	1,2,3			追加 sabum gido-âkuyôsetu サブマージドアーク溶接 submerged arc ((submerged-melt)) welding
117	1	1,2,3			追加 sen'i-ond 遷移温度 (溶接) transition temperature
142	※12	3	single-action discharrow		single-acting discharrow
158	※3	3	mesaprobien		mesosaprobien
168	14	1,2,3	(yunion-merutoyôsetuhô)		削除する
191	※9	3	burêki kurassyâ		Burêki-kurassyâ
209	2	1	collimeter		collimator
247	※8	1	flash-butt welding		flash-butt welding, flash welding
257	※5	1	trash-rack		trash-lack
288	5	2	中腐水性生物		中腐水性生物 (水道)
291	※9	1	mould-board ploug bottom ploug		mound-board ploug bottom plough
343	16	1	single-action discharrow		single-acting discharrow
360	※7	1,2,3			追加 submerged arc ((submerged-melt)) welding サブマージドアーク溶接 sabumâgido-âkuyôsetu
〃	※4	1,2,3	submerged melt ((union-melt)) welding		削除する
363	4	1,2,3			追加 saurfce float 水面ウキ suimen-uki
376	1	2	転位温度		転移温度
〃	2	1,2,3			追加 transition temperature 遷移温度 【溶接】 sen'i-ond
381	※1	1,2,3	union-melt ((submerged-melt welding))		削除する

編集後記

原子力が人類のものとなつてから 10 年そこそこ、考えてみるとわれわれは不思議な時代に生まれ合わせたものです。不思議なといつては適当でなく、すばらしい時代といつた方がよいかもしれません。人類始まつて以来考え続けてきた夢が片つ端から、しかもわれわれが生きていられるごく短い時代に本物となつて出現しているからであります。科学技

術の進歩は黄金の年の歩みとともにすばらしいものがあります。表紙の色も大変心配しましたが好評のようで安心致しました。毎月編集内容について、記事のバランスその他について、より親しみやすいように努力致しております。会員の皆さんにおかれましても、御忙しいでしょうが、新しいアイデア、着想といつたものの御高見を伺えれば幸甚です。

次号は、新潟における地盤沈下、下久野トンネルの地圧測定、辰巳橋の設計と製作、道路用ガードレールの効果、土木教育と土木技術、といつた興味ある記事を用意しています。そろそろ土木賞、奨励賞の選定の時期になりました。本年も大いに御投稿を期待しています。国土の芸術家として御健闘を祈つて止みません。 【堺・記】

会員入退会について (昭和 35 年 1 月 31 日現在)

1. 入会 80 名 (正 25, 学 50, 特 1B 1, 特 1C 2, 特 2 1, 特 3 1)
2. 退会 22 名 (名誉員 2, 正 16, 学 4)
3. 転格 2 名 (正から学へ 1, 特 2 から特 1C へ 1)

会員現在数 (昭和 35 年 1 月 31 日現在)

名誉員	賛助員	特 1A	特 1B	特 1C	特 2	特 3	正員	学生員	増加	計
27	30	17	17	76	109	98	13 498	1 082	58	14 954

昭和 35 年 2 月 10 日印刷

昭和 35 年 2 月 15 日発行

土木学会誌 第 45 巻 第 2 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂溜池 5 番地

発行者 末森猛雄

発行所 社団法人土木学会

東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

定価 100 円

替振 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5136・5139 番